

教育方法論	1 年・前期	2 単位	非常勤講師 池野 正晴
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011301

1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、教育工学、情報機器の操作・活用等について理解できるようにする。

2. 授業の進め方

- A「授業づくりネタクイズ」（できるだけ毎回）、B「教育方法学の基本概念」、C「実際の授業づくり」（B、Cについては並行して扱う）の3本柱で構成。常時、パワーポイント、OHC、DVDなどを活用する。
- 適宜、「授業づくりネタクイズ」を通して、授業づくりについて具体的に考えることができるようにする。

3. 授業計画

1. 教育方法論・そのプロローグー学生・生徒に培うべき資質・能力と「教育方法論」○×クイズー 2. B:教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー（パワーポイント資料等使用、以下「P」と略） C:「授業力」の上達（テキスト使用、以下「T」と略） 3. B:教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観・児童観の転換ー（P） C:教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅰー俗説と疎外要因ー（T） 4. B:教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー（P） C:教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅱー理念と理論の混同ー（T） 5. B:教材と教授行為Ⅱー教授行為と授業の成立ー（P） C:子どもの育ちをいかに援助するか（T） 6. B:発問、指示、説明とはⅠー「発問」とはー（P） C:活動を主体化させる授業改革（T） 7. B:発問、指示、説明とはⅡー「指示」、「説明」ー（P） C:個を生かす指導原理Ⅰー多様性・妥当性・有効性とゴールフリー・活動の多様化の原理ー（T） 8. B:系統学習モデルと経験学習モデルⅠー形式的教授段階説ー（P） C:個を生かす指導原理Ⅱー個人差重視・指導方法の	多様化の原理ー（T） 9. B:系統学習モデルと経験学習モデルⅡー問題解決学習ー（P） C:個を生かす指導原理ⅢーA T I 研究ー（T） 10. B:発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅰー問題解決学習と発見学習、及びアクティブ・ラーニング型学習ー（P） C:「授業崩壊」の要因と遠因Ⅰー教師の力量の問題ー（T） 11. B:発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅱー一般的な教授・学習過程ー（P） C:「授業崩壊」の要因と遠因Ⅱー子どもの変容と家庭教育ー（T） 12. B:学習指導に生かす教育工学Ⅰーメディアリテラシーと教育方法ー（P） 13. B:学習指導に生かす教育工学Ⅱー教育におけるコンピュータ利用ー（P） 14. B:学習指導に生かす教育工学Ⅲー教育におけるインターネット利用とICT活用の工夫・情報倫理ー（P） 15. 教育方法論・そのエピローグ
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回の授業に関して、授業をうけた後に、授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめておく。
- 小・中学校や高校において、これまで児童・生徒として受けてきた授業を思い出し、それらの授業とのつながりを具体的な例として、ノートにまとめておく。（ミニ・レポートとして提出）
- なお、これらの準備学修には、2時間程度の時間が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1 授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、教授行為等）について理解できる。

- 2 学習モデル（アクティブ・ラーニング型学習等）及び教授理論，授業の原理・技術，授業の計画・実施・評価，学習形態等について理解できる。
- 3 教育工学，情報機器の操作・活用，ICT教材作成等について理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験 80% （筆記試験，被教育者としての体験授業の分析レポート）
授業への参画度 20% （授業への参加・参画度，貢献度，参加・参画態度，発言内容，コメント記入等）

8. テキスト・参考文献

〔テキスト〕

- (1) 池野正晴『新しい時代の授業づくり』（実際の授業づくり），東洋館出版社
- (2) プリント資料

〔参考文献〕

- (1) 佐藤学『教育の方法』，左右社
- (2) 中川・苑編『メディアと学校教育』，放送大学振興会
- (3) 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』，図書文化

9. 受講上の留意事項

- 対話形式を重視し，「その場に居て実例等について実際に考え，話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。
- ペアワークやグループ討論では，積極的に参加し，自分の意見を表現し，相手の意見も尊重しながら聴くようにする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，学校現場（小学校教員，高等学校校長）における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職の必修科目である。